

[概要]

本研究では、富山県立山町を事例として、聞き取り調査をもとに農家、株式会社たてやま、中学生の農家民泊の意味についてまとめたうえで立山町における農家民泊の意味を検討し、それをふまえて地域振興にとって農家民泊がもつ意味を明らかにすることを目的とした。その結果、農家にとっての農家民泊は農家同士や家族内での交流を増やす役割を果たし、株式会社たてやまにとっての農家民泊は観光客の安定した獲得手段であり、中学生にとっての農家民泊は自分の生きる社会や生活への興味・関心を高め、環境教育や農村への興味、自我形成、社会性の育成の役割を果たしていることが分かった。また、立山町にとっては立山町を知ってもらうための役割と将来の流入者や観光客を生み出す役割を果たしておりこれらのことを統括すると農家民泊は地域間・家族間のつながりや交流を生み出し地域内での新たな活動を生み出す起点となるだけでなく、将来の流入者や観光客を増やすという2つの意味を持っているということがいえる。